



Chapter 01

Evernote 情報整理のススメ

本章では「第2の脳」と言われる Evernote がどのような特徴を持つのかを紹介
します。また、本書での Evernote を中心とした情報整理のしくみを構築するまで
の流れを説明しますので、まずは本章で全体像を把握してから各章にお進みくださ
い。

1-1 記憶するノート Evernote、 人生を詰め込もう！

「これだけは絶対に忘れたくない」と思ったことはありませんか？

幼い日の家族旅行の思い出も、初恋の淡い思い出も、友人たちと流した青春の汗と涙
も、どんなに忘れたくないと願っていても、いずれは記憶があいまいになり、忘却の彼
方へと追いやられてしまいます。残念なことですが、私たち人間は忘却を避けて通るこ
とができないのです。

しかし、私たちの脳はただ忘れるだけでなく、もうひとつ「思い出す」という重要な
機能を備えています。きっかけを与えさえすれば、脳は無意識のうちに記憶を呼び起こ
すことができます。たとえば、普段の生活の中ではすっかり忘れてしまっていた幼少時
代の家族旅行の思い出であっても、久方ぶりに帰省した実家で家族と団らんしながらア

ルバムを見返すと驚くほど克明にその当時のことを思い出すことができているのです。つまり、冒頭の質問にある「これだけは絶対忘れたくない」を実現するために行うことは「忘れない努力」ではなく、忘れることを前提とした「必要なときに思い出すきっかけを与えるしくみ」を構築することなのです。

本書は、この「必要なときに思い出すきっかけを与えるしくみ」を「Evernoteを中心とした情報整理システム」という形で実現させていきます。Evernote はあなたの代わりに詳細な情報や大切な思い出を覚えておいてくれ、必要なときにそれらの情報を取り出し、さらにそこからあなたの記憶を呼び起こす手助けまで行ってくれる、いわば「第2の脳」と言える存在なのです。

★ 脳の苦手分野をサポートする Evernote

Evernote 社の CEO である Phyllis 氏が Evernote を「第2の脳」と表現したとおり、Evernote は人の脳の「記憶」に関する仕事の一部を引き受けてくれます。人の脳は「詳細な情報をいつまでも覚えておく」ことを苦手としています。第2の脳である

Evernote は次の3つの特徴から脳の苦手分野をサポートしてくれます。

- 情報を正確に瞬時に保持し、絶対に忘れることはない
- 必要なときに必要な情報を引き出すためのしくみが用意されている
- いつでもどこでも情報にアクセス可能

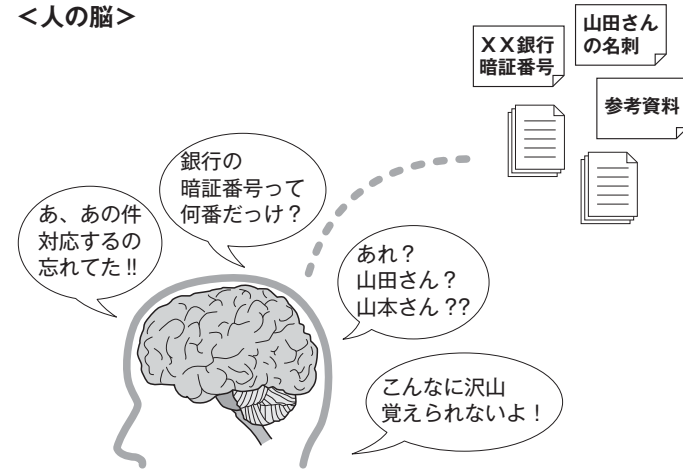
最初の特徴として、人の脳が物事や意味を正確に覚えておくのが苦手なのに対して、Evernote はどれだけ複雑な情報であっても正確に保持しておくことができ、一度保持した情報を忘れることはありません。くわえて、脳が大量の情報を一気に覚えることを苦手としているのに対して、Evernote はどれだけ大量の情報であっても一瞬の内に完璧に覚えることができます(図1)。

次に、人の脳は必ずしも必要なときに必要な情報を思い出せるとは限りません。会議のときなどに「あれなんだっけ」とど忘れした経験をお持ちの方も少なくはないと思いますが、脳は気まぐれに思い出すことができなくなってしまうことがあります。対して

最後は「Evernoteを「第2の脳」たらしめている最大の特徴とも言える、いつでもどこでもEvernoteの情報にアクセス可能な点です。自分の脳からいつでもどこでも記憶を引き出せるように、家や会社であればパソコンから、外にいるときはスマートフォンからいつでもどこでもEvernoteの保持する情報にアクセスできるのです。

Evernoteは適切に情報を整理しておくことで、タグや検索を用いて必要なときに必要な情報を確実に引き出すことが可能となります。

<人の脳>



<第2の脳のEvernote>



→ 図1 人の脳の苦手分野をEvernoteが補完